

大沼信之（おおぬま・のぶゆき）先生



元松竹株式会社 常務取締役

前株式会社歌舞伎座 代表取締役専務

《講義概要》

前株式会社歌舞伎座代表取締役専務であり、長年に渡り歌舞伎の興業に携わってこられた大沼信之氏が歌舞伎 Gatewayとして、講義を行った。

講義ではまず、受講生から多く質問のあった「若者の歌舞伎離れに対する対策をどのようになっているか」について触れられた。歌舞伎は古典芸能という古く堅く新しいイメージが強いが、若い人たちとの接点をつくるため新しい事もしている。現代劇の有名脚本家が書いた新作歌舞伎を上演したり、映画館で歌舞伎が気軽に観られるシネマ歌舞伎を上映したり、インターネットサイトでのチケット販売や一幕見席、歌舞伎俳優のテレビ出演など、さまざまな工夫や努力が行われている事に触れられた。「高額」という印象の歌舞伎の入場料金だが、三階席や一幕見席といった安価な席も用意されている。また、かなりの数の歌舞伎役者は自身のブログやオフィシャルサイトをもっており、素顔に接することができること述べた。歌舞伎はお客様があって成り立つものであり、時代時代の支持を受けて今日まで存続してきた。後世につなぐためにも、若い人たちが歌舞伎を観るよう常に働きかけている。

1603年「出雲の阿国」から始まる歌舞伎の歴史についても、時代ごとに詳細にご講義された。「かぶき踊り」を始めた阿国は『当代記』に「好女に非ず」と記載されていて、男装をし、寸劇を演じた。当時、女性が舞台に立つことは、世界的に見ても大変珍しいことであった。その後、幕府によって女性の舞台出演が禁止され、成人男性による「野郎歌舞伎」となり、以後、男性だけの演劇として今日にいたっている。女役を演じる女方が発生し、当初女方は

普段から女性らしく振舞うことが求められたが、しだいに芸として工夫が重ねられ、生身の女性を離れた、あるいみで「女よりも女らしい」女方芸という独自の境地に達したと紹介した。

続いて江戸で生まれた力強く荒々しい芸の「荒事」と、上方で生まれた優しくなよやかな芸の「和事」を紹介した後、江戸時代中期に入り歌舞伎が円熟期を迎える。市井の人々のリアルな生活を描いた脚本の誕生や、せり・回り舞台の登場など、時代時代に合わせ変化してきた歌舞伎は、明治の文明開化期を迎え世の中が西洋化すると、江戸を懐かしむ傾向となってきた。

昭和30年代以後、映画・テレビの台頭により観客が減少したが、平成以降人気を盛り返している。

歌舞伎は常に時代に即した演劇・エンタテインメントであろうとしてきた。「古典」と「新作」という2つの側面を持ち、常に「変えてはいけないことは変えずに守り」、「新しいことを果敢に取り入れて」継続されてゆくと述べ、講義を終えられた。



<学生からの質問>

Q1.

大学時代に美術を専攻されていたと思いますが、歌舞伎をビジネスの一つとして捉えているのか、芸術として捉えているのか、どちらでしょうか（立命館大学・文学部・3回生）

A. 大学時代は、美術を専攻で、古代ギリシャ悲劇を研究していました。一方で歌舞伎は中学生の頃から見ていたが、大学卒業時にギリシャ悲劇では職業にならないと思い、歌舞伎を選びました。ストレートプレイの世界は硬いが、歌舞伎は一種のミュージカルと考えられるような楽しい世界・娯楽的な世界である。かつ歌舞伎は世界で唯一のものであるという確信もあり、この道を選びました。ビジネスか芸術かという捉え方はしていない。両方。

Q2.

歌舞伎役者の家出身では無い人が役者になるにはどうしたらよいでしょうか。また、歌舞伎に関連する仕事はどうしたらできますか。（立命館大学・映像学部・4回生）

A. 普通の家に生まれた人も歌舞伎役者になっています。国立劇場に研修生制度があり、中学卒業以上の人は研修生になれます。そこで修行した人が歌舞伎役者になっており、現在 97 人が歌舞伎役者になっており、歌舞伎役者のおよそ三分之一（歌舞伎役者全体は 292 人）が一般の家庭出身と言えます。

また、研修生以外にも子供の頃からお芝居が好きで、将来歌舞伎役者になりたいと思っている子供が、舞踊を習ったりして歌舞伎の子役になり、歌舞伎役者になってゆくということもあります。

一般の家庭に育った人も努力と実力で大きく伸びており、例えば坂東玉三郎、片岡愛之助といった人たちも普通の家庭の出身ですが、現在は立派な歌舞伎役者になっています。必ずしも歌舞伎の家出身でなければ歌舞伎役者になれないということは無いです。

芸事なので、できるだけ小さい頃から習ったほうが良いことは、一般論として言えます。芸術なので、こどもの頃に覚えた踊りや三味線が体に入っているほうがより良いということはあると思います。できるだけ小さいうちから慣れ親しんでいるほうが歌舞伎役者としてよいということはあると思います。

現在は国立劇場以外で、歌舞伎の仕事をするには松竹株式会社のみです。

Q3.

落語と歌舞伎は繋がりが深いと感じるのですが、落語と歌舞伎の関係性をお聞きしたいです。（立命館大学・映像学部・3回生）

A. 歌舞伎の中に落語から芝居になったものがあります。「文七元結」や「芝浜革財布」など、落語の話種を歌舞伎にして演じるものがあります。円朝の怪談なども歌舞伎化されていますが、落語家から歌舞伎に働きかけがあることは歴史的には無かったと思います。

落語の中には「仲蔵」という落語があるんですね。江戸時代に一代で名優になった「中村仲蔵」を扱った落語で、かなり良い落語です。というのは、名門でないとトップになれなかった時代に、例外的に一番下からからトップにまで上り詰めた初代仲蔵の話です。そのことを落語で語っています。

中村仲蔵は忠臣蔵・五段目で斧定九郎（悪役）を演じ、早野勘平の父を殺してしまうシーンがあります。当時、定九郎は山賊の格好をした脇役だったのですが、仲蔵は工夫に工夫を重ね、当時の浪人がしていた黒の衣装に青白い感じの顔と、まったくそれまで江戸の人が見たことが無い役作りをして大評判となり、大入りが続けたという話です。江戸時代でも本当に努力を重ね、才能がある人は上に上っていたことを、感動的に語っている話です。是非今度聞いてみてください。

Q4.

片岡愛之助さんが、舞台の最後にギャグを入れたという話がニュースになっていたのですが、歌舞伎はよくアドリブが求められたりするのでしょうか。(立命館大学・国際関係学部・3回生)

A. 歌舞伎は厳格にせりふを一言も変えてはいけないものもあります。古典の「勧進帳」・「寺子屋（菅原伝授手習鑑・四段目）」などは一切変えてはいけないのです。一方少しアドリブを入れていいものもあります。例えば「助六」。300年以上続いている芝居ですから、型が決まっていますが、その助六でさえ、最後に出てくる通人は、助六の股の間を潜って去るのですが、引っ込むときに時期にあったギャグを入れることになっており、それを楽しみに来るお客様もいます。ギャグの入る余地というのは歌舞伎にはいろいろ有り、ですから、愛之助さんのも、そういったかたちでギャグを入れたのではないかと思います。

私の知っている中では、洒落たCMを舞台で言うと、その企業からその商品が役者さんに届いたりしました。それぐらい歌舞伎はやるほうも見る方も遊び心があったものです。

Q5.

歌舞伎のマンガ『ぴんとこな』やドラマから歌舞伎の用語を学んだのですが、どのように感じられますか。(立命館大学・産業社会学部・4回生)

A. マンガで歌舞伎を扱ってくれるのは、すごく嬉しいですね。マンガやテレビで歌舞伎を扱ってもらえないといけないと思いますし、おおいに広めて歌舞伎を身近に感じて欲しいと思います。

どんどん歌舞伎がマンガになっていくといいと思います。

Q6.

関西ではあまりなじみが無いですが、「コクーン歌舞伎」とはなんなのでしょう(粟谷先生)

A. 「コクーン歌舞伎」とは東京・渋谷のシアターコクーンでやる歌舞伎のことなのですが、平成6年から何回も上演しています。コクーンというのは新しい劇場ですし、特に串田和美さんが最初芸術監督をしていたのでどちらかという最新の演劇をやるような劇場だったのです。私が最初にコクーンを見に行った時に「この真四角で回りにも困むように席がある劇場は歌舞伎に向いているな」と感じました。しかも江戸の芝居小屋と同じようなサイズで、ここで歌舞伎をしたら面白いんじゃないか、と思いました。特に渋谷は若者の町なので、若い人が歌舞伎を観に来てくれるんじゃないかと思ってはじめたのがコクーン歌舞伎で、第一回目は四谷怪談で開けました。

中村勘三郎さんがお岩さんで、中村橋之助さんが田宮伊右衛門で上演したのですが、そのときに「本水」を使いました。舞台の前にプールを作り、本物の水が溜まっているんですね。四谷怪談には隠亡堀の場というシーンがあり、隠亡堀にお岩さんの死骸が戸板にくくり付けられて流されてくるというシーンなんです。水の中からお岩さんが浮かび上がって田宮伊右衛門に呪いの言葉を言うという怖いシーンなのですが、歌舞伎座や他の劇場では水は水布という布でやるのですが、コクーン歌舞伎では本水を使ったので、お岩役の勘三郎さんが水の中をもぐって行き、ずぶ濡れで浮かび上がってきました。それは不気味でしたね。お客はスーっと寒くなるような場面でした。

そういった新しいことが出来るのが、コクーンです。なかなか他の劇場では水槽を作ることは出来ないのです。浮かびあがってくるので、深く作らないといけないです。そういったことができる大変に面白い劇場だと思いますし、今も続いています。